

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —  
 表 現：外国語表現の能力  
 理 解：外国語理解の能力  
 言・文：言語や文化についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
ア 聞くこと	1	(1) Thank you very much. に対して正しく応答できる。	理解	85.0	80.2
		(2) Whoseを用いた疑問文に正しく答えることができる。	理解	50.0	52.3
		(3) orを用いた疑問文に正しく答えることができる。	理解	70.0	72.3
	2	(1) まぎらわしい数字の発音を聞き分けることができる。	理解	75.0	79.2
		(2) 物や人の場所を聞き分けることができる。	理解	60.0	72.3
		(3) 物の数や特徴(大小)を聞き分けることができる。	理解	85.0	96.4
		(4) 人物の動作(状態)を聞き分けることができる。	理解	70.0	93.0
3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解している。	理解	60.0	77.5	
エ 書くこと	4	(1) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。	言・文	50.0	33.7
		(2) 適切なbe動詞を書くことができる。	言・文	60.0	64.1
		(3) 現在進行形の文を書くことができる。	言・文	50.0	34.7
		(4) 規則動詞過去の否定文を書くことができる。	言・文	50.0	30.7
ウ 読むこと	5	(1) まとまりのある英文を読んで詳細(代名詞)を把握できる。	理解	80.0	82.3
		(2) まとまりのある英文を読んで詳細(連語)を把握できる。	理解	70.0	92.4
		(3) まとまりのある英文を読んで要点(概要)を把握できる。	理解	60.0	72.3
		(4) まとまりのある英文を読んで要点(目的)を把握できる。	理解	50.0	90.7
	6	(1) 対話文を読んで詳細(内容)を把握できる。	理解	75.0	83.3
		(2) 対話文を読んで詳細(内容)を把握できる。	理解	75.0	76.8
エ 書くこと	7	(1) 命令文を書くことができる。	表現	60.0	51.1
		(2) 対話に合うWhatを用いた過去進行形の文を書くことができる。	表現	50.0	44.8
		(3) 対話に合うWhat＋名詞の語順の文を書くことができる。	表現	40.0	27.9
ウ 読むこと	8	① 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	55.0	67.7
		② 場面に合う適切な英文を選ぶことができる。	理解	65.0	49.7
		(2) 場面に応じた対話の流れを理解している。	理解	50.0	58.9
エ 書くこと	9	(1) What timeを用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	40.0	27.7
		(2) Whatを用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	40.0	22.4
		(3) How manyを用いて日本語に合う英文を書くことができる。	表現	40.0	43.3
	10	指示に従って、まとまりのある英文を書くことができる。	表現	40.0	19.4

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	(1)	Thank you very much.に対する応答	85.0	80.7	80.7	80.5	77.7	75.5	80.4	78.2	
	(2)	Whoseに対する応答	50.0	58.6	59.2	49.4	56.8	57.0	59.0	55.2	
	(3)	orを用いた疑問文への応答	70.0	75.4	75.7	69.5	69.9	66.1	75.9	70.1	
2	(1)	まぎらわしい数字の発音の聞き分け	75.0	79.5	79.4	80.5	78.7	80.8	75.3	78.6	
	(2)	物や人の場所の聞き分け	60.0	75.5	75.5	75.3	76.4	74.4	74.4	80.0	
	(3)	星の数やそれらの大小の聞き分け	85.0	96.8	96.7	97.4	96.2	96.2	94.6	97.2	
	(4)	人や動物の動作と場所の聞き分け	70.0	94.4	94.3	96.1	94.3	92.1	95.2	96.0	
3		まとまりのある英文の概要理解	60.0	80.6	80.8	78.6	77.4	75.3	81.6	77.0	
4	(1)	三人称・単数・現在形の文	50.0	37.2	37.6	30.5	35.2	33.5	35.8	36.6	
	(2)	適切なbe動詞	60.0	71.6	71.9	66.9	70.7	67.6	67.8	76.0	
	(3)	現在進行形の文	50.0	42.1	42.5	34.4	33.0	30.2	28.0	39.2	
	(4)	規則動詞過去の否定文	50.0	35.7	35.6	37.7	27.1	22.0	30.4	30.5	
5	(1)	まとまりのある英文を読んでの詳細把握	80.0	87.0	87.3	82.5	82.4	81.5	83.4	82.6	
	(2)	まとまりのある英文を読んでの詳細把握	70.0	93.8	93.6	96.8	93.1	94.1	91.6	93.1	
	(3)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	60.0	74.2	74.1	76.6	69.3	66.8	72.9	69.5	
	(4)	まとまりのある英文を読んでの要点把握	50.0	92.1	91.9	96.1	89.9	89.7	91.6	88.9	
6	(1)	対話文を読んでの詳細把握	75.0	85.7	85.9	81.8	84.5	84.2	85.2	84.4	
	(2)	対話文を読んでの詳細把握	75.0	78.7	78.9	75.3	72.8	71.4	72.3	74.7	
7	(1)	丁寧な命令文	60.0	59.5	59.6	59.1	45.8	38.5	51.2	50.3	
	(2)	疑問詞で始まる過去進行形の文	50.0	56.6	56.8	54.5	47.0	42.5	50.0	49.9	
	(3)	対話に合うWhat＋名詞の語順の文	40.0	28.4	28.5	27.9	35.6	31.9	45.5	33.1	
8	(1)	①	場面に合う適切な英文の選択	55.0	72.8	72.9	69.5	66.8	65.9	67.2	67.5
		②	場面に合う適切な英文の選択	65.0	50.8	51.5	39.6	51.8	51.5	51.8	52.3
	(2)	場面に応じた対話の流れの理解	50.0	60.2	59.9	64.9	62.5	58.8	64.8	65.0	
9	(1)	Whatを用いた日本文に合う過去の英文	40.0	35.3	35.7	28.6	30.0	26.7	31.9	32.3	
	(2)	Whatを用いた日本文に合う現在の英文	40.0	20.2	20.3	17.5	28.3	23.3	30.7	32.1	
	(3)	How manyを用いた日本文に合う現在の英文	40.0	42.5	42.6	40.9	54.3	52.0	63.3	50.9	
10		条件に合うまとまりのある英文	40.0	22.9	22.7	27.3	17.4	18.7	16.3	16.6	
教 科 全 体			59.1	63.9	64.0	62.0	61.6	59.6	63.1	62.8	

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
76.5	78.8	69.6	80.1	70.1	81.6	80.4	85.9	80.4	80.6	82.7	72.5	82.7	83.1	81.4	80.2
41.0	44.0	35.9	39.9	33.7	52.2	53.9	54.7	49.7	49.0	50.1	45.0	54.2	55.3	50.2	52.3
71.3	73.1	64.6	70.6	71.1	70.9	73.7	73.1	67.9	69.4	70.5	65.0	73.1	73.6	71.3	72.3
78.9	80.7	78.3	80.7	68.7	80.1	81.3	83.4	77.7	77.8	77.4	79.4	79.3	79.8	77.7	79.2
68.3	68.2	68.2	68.6	68.7	75.0	78.1	77.1	71.8	69.0	68.2	71.9	69.7	70.8	66.0	72.3
96.2	95.8	97.5	96.4	95.9	96.8	98.2	97.8	95.2	94.3	94.5	93.8	96.5	96.3	97.0	96.4
90.3	90.2	91.6	90.8	88.4	94.2	95.4	96.2	92.4	91.5	92.8	86.9	92.8	93.4	90.8	93.0
74.7	74.6	78.0	77.5	68.4	77.4	81.3	75.3	75.5	70.9	72.5	65.0	78.7	78.0	81.2	77.5
36.0	41.2	29.5	32.0	22.8	34.5	33.4	38.8	33.2	27.1	30.0	16.3	28.8	30.7	22.4	33.7
63.9	70.9	49.6	52.0	59.5	61.0	65.9	59.2	58.4	51.5	53.3	45.0	59.5	59.8	58.5	64.1
28.5	32.5	20.9	19.3	27.9	32.6	35.0	35.7	29.4	33.2	32.5	35.6	35.5	35.6	35.2	34.7
25.0	27.7	20.6	19.9	22.8	25.2	29.2	25.3	22.3	35.8	36.5	33.1	34.9	36.0	31.1	30.7
80.5	80.4	76.0	82.7	84.0	78.8	78.6	81.8	77.5	79.0	80.2	74.4	82.7	82.2	84.5	82.3
90.6	91.2	88.3	90.5	90.1	93.8	93.9	92.4	94.4	88.1	89.3	83.8	92.4	93.3	89.3	92.4
67.1	69.1	64.3	66.0	61.9	74.7	75.3	74.7	74.2	68.0	69.2	63.8	75.5	76.3	72.5	72.3
89.4	89.2	88.0	90.2	91.2	91.0	91.9	89.9	91.0	88.0	88.4	86.3	91.2	91.4	90.5	90.7
79.2	80.1	76.6	78.8	78.2	84.8	86.2	85.4	83.6	77.9	79.7	71.3	84.2	84.9	81.5	83.3
77.0	78.4	67.1	79.7	79.3	77.9	80.5	75.6	77.1	70.5	72.2	64.4	77.4	77.5	77.1	76.8
43.9	46.4	35.4	47.1	38.4	53.7	59.7	55.8	48.4	41.9	42.5	39.4	52.0	52.2	51.4	51.1
44.8	49.4	38.7	41.8	33.0	44.5	46.0	43.7	43.8	28.0	29.1	23.8	37.1	37.6	35.2	44.8
39.3	45.7	32.6	32.0	23.5	32.0	39.8	25.3	29.5	14.5	16.4	7.5	15.4	12.9	23.9	27.9
60.3	65.1	51.3	57.2	51.0	67.2	70.1	67.5	65.0	59.0	59.5	57.5	71.9	72.2	71.0	67.7
42.5	45.7	35.7	42.5	35.4	53.7	60.8	52.0	49.5	48.0	49.4	42.5	51.0	51.7	48.4	49.7
50.4	53.4	43.5	51.3	43.2	63.4	65.0	66.8	60.6	55.7	58.1	46.9	60.6	62.9	52.6	58.9
24.1	25.6	21.4	21.9	22.1	22.5	27.5	26.7	16.8	19.9	18.8	24.4	28.1	29.3	24.2	27.7
14.0	15.1	10.0	16.7	10.2	27.3	30.2	32.1	22.9	27.9	28.8	24.4	23.9	26.4	15.9	22.4
33.6	39.1	17.0	31.0	29.6	45.7	47.2	51.8	41.7	40.8	43.7	30.0	45.9	48.1	38.3	43.3
14.7	17.0	10.9	12.1	11.2	18.4	21.3	20.9	15.1	16.4	17.6	11.9	22.4	23.0	20.6	19.4
57.2	59.6	52.2	56.0	52.9	61.1	63.6	62.3	58.7	56.2	57.3	52.2	60.7	61.3	58.6	60.6

## ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	8	1(1)、2(1)、 2(3)、2(4)、 3		77.9	69.4
読むこと	9	5(1)、5(2)、 5(4)、6(1)、 6(2)	8(1)②	74.9	64.4
書くこと	11		4(1)、4(3)、 4(4)、7(2)、 7(3)、9(1)、 9(2)、9(3)、 10	36.4	47.3

内容・領域別にみると、県の平均通過率と比較して、これを上回ったのは「聞くこと」・「読むこと」であり、下回ったのは「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、上回ったのは「聞くこと」・「読むこと」であり、下回ったのは「書くこと」である。

## エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
表現の能力	7		7(2)、7(3)、 9(1)、9(2)、 9(3)、10	33.8	44.3
理解の能力	17	1(1)、2(1)、 2(3)、2(4)、 3、5(1)、 5(2)、5(4)、 6(1)、6(2)	8(1)②	76.3	66.8
言語や文化 についての 知識・理解	4		4(1)、4(3)、 4(4)	40.8	52.5

観点別にみると、県の平均通過率と比較して、これを上回ったのは「理解の能力」であり、下回ったのは「表現の能力」・「言語や文化についての知識・理解」である。

設定通過率と比較すると、上回ったのは「理解の能力」であり、下回ったのは「表現の能力」・「言語や文化についての知識・理解」である。

## オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
4	(1)	33.7	50.0	live(37.0)、from(15.5)、is(6.0)
	(3)	34.7	50.0	do(20.5)、are(15.5)、does(12.5)、were(2.5)
	(4)	30.7	50.0	was(39.0)、am(16.0)、do(6.5)
7	(3)	27.9	40.0	What do you like animals?(67.5)
9	(1)	27.7	40.0	What time do you?(12.0)、What time were you?(7.5) When(7.5)、無答(7.0)、What time is it?(5.5)、疑問詞なし(5.5)、What(5.0)
	(2)	22.4	40.0	What are you doing?(16.0)、無答(8.5)、will(6.0)、 What were you doing?(4.5)、was(1.5)
10		19.4	40.0	3文書いているが、どこかに間違いがあるもの(62.5) 1～2文のみ書いているもの(10.0)、無答(10.0)

### ● 4(1)について

誤答の原因として、三人称単数現在の s が欠落している「live」と解答したものが37.0%あったことから、主語が三人称単数現在の時の動詞の変化について習熟していないと考えられる。また、昨年度は主語が「She」であったため、通過率が44.4%であったが、今年度は主語「My brother」の、My「私の」につられて s の欠落した「live」が誤答として増えたものと考えられる。

### ● 4(3)について

誤答の原因として、「do」と解答したものが20.5%あったこと、また、be動詞「are」が15.5%、「does」が12.5%であることから、現在進行形の「be動詞＋～ing」の文構造理解が不十分であることが考えられる。また、主語「your mother」が「He」「She」と同じ三人称単数であることが理解されていないために、be動詞「is」が正しく選ばなかったと考えられる。

### ● 4(4)について

誤答の原因として、「was」と解答したものが39.0%あったことから、過去の文であることは認識されているが一般動詞・否定文ではdidn'tを用いることを忘れていることが考えられる。

1年時後半に学習した一般動詞の過去形と2年時前半に学習したbe動詞の過去形及び過去進行形の区別が不十分であると考えられることから、一般動詞とbe動詞を対比させながら指導することも必要であると考えられる。

### ● 7(3)について

誤答の主なものとして、「What do you like animals?」と解答したものが67.5%と多かったことから、「疑問詞＋名詞」の文構造の理解が不十分であることが考えられる。

### ● 9(1)について

時間を尋ねる際にWhen、Whatのみ、疑問詞なし、無答といった誤答が25.0%であった。また、What timeで始めているか疑問文を正しく表すことができなかった誤答が25.0%であったことから一般動詞過去の疑問文の作り方に習熟していないことが主な誤答の原因と考えられる。

### ● 9(2)について

誤答の原因として、現在進行形が16.0%、will・be動詞が12.0%であったことから、一般動詞が習慣を表すという働きがあることについての理解が不十分であると考えられる。

### ● 10について

昨年度に続き、まとまりのある文を書く力をみるため3文を書く問題とした。昨年度から3問中2問できて正答としたことで、通過率も30%を越えたが、今年度は19.4%と昨年度より11.0ポイント下がった。一方、1～2文のみ書いているものが10.0%、無答が10.0%で、昨年度より減っていることから、間違いはあるものの、3文書くという意欲は高まっている捉えることができる。

誤答の原因としては、「公園に行く」・「部屋の掃除をする」・「宿題をする」・「寝る」といっ

た日常の動作を表す表現や過去時制に伴って動詞を過去形にすることについての習熟が不十分であると考えられる。やはり、理解にとどまらず、繰り返して言ったり、書いたりさせて、使わせながら定着を図ることが必要であると考えられる。

## カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題は「書くこと」の向上で、評価の観点別にみた課題は「表現の能力」の伸長である。設定通過率との比較からみた課題も「書くこと」及び「表現の能力」の伸長となっており、例年と同様の課題である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題からも分かるように、基礎的・基本的な文法事項と文構造、5W1Hで始まる疑問文とその応答及びまとまりのある英文を書くことの習熟が十分ではないことが考えられる。そのため、パンプラクティスやドリルなど、習得のための活動だけでなく、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識や情報等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を、より一層充実する必要がある。

三人称単数現在形のs(es)、What＋名詞の疑問文及び5W1Hで始まる疑問文に関わる指導例についてはここ数年取り上げているため、今回は特にまとまりのある英文を書くことについて焦点を当てて指導例を挙げる。まとまりのある英文を書くことは、単に複数の文を羅列することではなく、時間の経過や代名詞等に着目して文と文のつながりを工夫することへの指導が求められる。従って、与えられた場面や状況の中で、文の形式や動詞の形を適切に判断させるような活動を取り入れたり、実際に文章を構成していく中で、効果的な文の配列やつなぎ言葉の使用を焦点化して考えさせたりするなど、様々な工夫が求められる。

指導の初期段階では、文章において、代名詞の使用や言い換えなどによって語や文がどのように関係し合い、構成されているかを考えさせながら読ませ、関係性を図示させるような活動が考えられる。また、文章中の接続詞や副詞などを空欄にして、どのような語句を入れれば前後がつながるかを考えさせる活動も有効である。そのように注意して読むことによって得られた知識を使い、正しい文構造で文を作り、つながりに注意してまとまりのある英文を書く練習を繰り返し行うことが大切である。

### 指導例 文章構成について図示した後でまとまりのある英文を書く活動

「テーマについて自分の考えを表現しよう」

#### 1 英文を読んで内容をマッピングで整理する。

テーマ：Which do you like better, summer vacation or winter vacation? Why?

— 健（たけし）の意見 —

I like winter vacation better than summer vacation. I have three reasons.

First, we have snow in winter. So we can enjoy winter sports like skiing and skating.

Second, we can enjoy Christmas and New Year Holidays. We can get a Christmas present and a New Year's gift.

Lastly, we can watch many special programs on TV. I enjoy them with my family. So we can enjoy many things in winter vacation.

[意見] 冬休みが好き

[理由]

[結論] 冬休みには楽しむことがたくさんある



2 1のマッピングを参考に、自分の考えをマッピングでまとめる。

[意見] 夏／冬休みが好き

[理由] \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

[結論] \_\_\_\_\_

3 2をもとに自分の考えを書く。

4 同じ考えをもつ人とグループになって発表し合う。

5 異なる考えをもつ人と考えを発表し合う。

まとまりのある英文を書くことに慣れてきたら、①与えられたトピックについて関連した語句を書き出すマッピングを行う、②グループ化する、③ワードバンクや辞書を活用し英文にする、④代名詞や接続詞、副詞などを使ってつながりをもたせる、⑤読み手を意識し、配列を工夫したり、内容を吟味するというスモールステップで指導することが考えられる。

**指導例** 文と文のつながりを工夫してまとまりのある英文を書く活動

「絵から物語を作ろう」 登場人物：Taro, Maki, Yuri, Mary (Dog)



※国立教育政策研究所  
特定の課題に関する調査(英語：「書くこと」) 調査結果(中学校)より

1 与えられた視点についてできるだけたくさん文を作る。(グループ活動)

\*視点A、B、Cについて、絵から考えられることを自由に出し合う。

A：天候

- The sun is shining.      • It is a fine day.      • It is very hot.
- The sky is blue.      • It is a summer day.

B：風景(周囲の様子)

- There are a lot of fish in the river.      • We can see many flowers by the river.
- There are beautiful mountains.      • We can see a bird in the sky.

C：人物等の様子

- Maki and Yuri are laughing.      • Taro is fishing.      • Mary looks sleepy.
- Taro is camping.

2 書きたい文章の内容を整理する。(グループ活動)

\*必要な情報を選択し、書く順序を考える。

A：天候

- ③The sun is shining.      →It is a fine day.      ①It is very hot.
- The sky is blue.      ②It is a summer day.

B：風景(周囲の様子)

- ③There are a lot of fish in the river.      ②We can see many flowers by the river.
- ①There are beautiful mountains.      →We can see a bird in the sky.

C：人物等の様子

- ④Maki and Yuri are laughing.      ②Taro is fishing.      ③Mary looks sleepy.

①Taro is camping.

### 3 それぞれの文をまとめて物語を作る。(グループ活動)

\* 代名詞を活用し、時制に注意するなど工夫して文章にまとめる。

A : It is a hot summer day. The sun is shining.

was was

B : There are beautiful mountains. Yellow flowers are open. There are a lot of  
were were were  
fish in the river.

C : Taro is camping. Taro is fishing. Taro caught a glass and a toothbrush.

was He was He

Mary looks sleepy. Maki and Yuri are laughing.

looked laughed

### 4 自分の考えを付け加えて書く。(個人活動)

\* 接続詞を使って、文と文のつながりを工夫する。

It was a hot summer day. The sun was shining. There were beautiful mountains, and we can see many flowers by the river.

Taro was camping in this beautiful place. He was fishing because there were a lot of fish in the river. But he couldn't fish well, so Mary looked sleepy. Maki and Yuri laughed and said, "You got a glass and a toothbrush for tomorrow morning."

### 5 つづりや文の構造等の誤りを直す。(個人活動)

\* 生徒自身が誤りを発見したり、教師が誤りに気付かせたりする。

上記のように授業するには、「書くこと」における1つ1つの活動に対して従来以上に時間をかける必要がある。今次の学習指導要領改訂による授業時数の増加に伴い、言語活動をこれまで以上に充実させることが可能になったこともあり、到達目標を明確に示し見直しをもって指導することや、年間指導計画及び単元指導計画の策定において、「書くこと」の指導を改善していく必要がある。

## キ まとめ

内容・領域別では、「聞くこと」・「読むこと」については概ね良好であるが、「書くこと」については不十分な点が認められ、特にまとまりのある英文を書く力の育成が必要である。そのため、日常的に基本的な英文を繰り返し復習する指導過程を構成し、小テスト等で定着を図るとともに、最終的にはパラグラフを書く活動を充実させる必要がある。

また、コミュニケーション活動を行うに当たっては、言語活動の充実の観点から、「プラス1」を有効に使い、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を通して定着を図ることや、生徒が思考・判断する場面を活動の中に取り入れるようにすることが大切である。

文部科学省では、外国語教育の改善に向けて様々な資料を提供している。「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語の授業実践事例映像資料」、「言語活動の充実に関する指導事例集」、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」、「特定の課題に関する調査(英語:「書くこと」)調査結果(中学校)」である。これらの資料は各校に配布されているものである。特に最後に掲げた資料は、上記の課題解決に直結する内容であり、ぜひ目を通してほしい。

さらに、平成22、23年度の学習状況調査実施報告書の「今後の指導について」に「新学習指導要領を意識した授業のために」を掲載している。これらも確認しながら、生徒がコミュニケーション能力の基礎を身に付け、平成25年度より年次進行で実施される高等学校の新学習指導要領の一つの目玉である「英語での授業」に対応できるよう、指導に力を注いでほしい。